

見通しをもって理科の学習活動に

取り組むことができる生徒を育む授業づくり

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（理科）

長谷 美智雄

本研究では、観察・実験の目的を理解し、根拠のある仮説を立てることを通して、見通しをもって理科の学習活動に取り組む生徒の育成を目指す授業づくりを目的とし、授業実践を行った。3つの授業実践では、学習内容と生活経験とが関連する具体物の提示や、既習内容を想起させるために、振り返りの視点を明示したペア活動といった、教師が生徒に働きかける手立て、仮説を立てる場面で話型を取り入れたワークシートを導入する手立てを行った。アンケート調査や、授業実践で使用したワークシートの記述分析から、生活経験や既習内容を根拠とした仮説を立てる生徒の姿を見ることができた。しかし、これらの手立てだけでは、観察・実験の目的を生徒に理解させることができず、見通しをもって学習活動に取り組ませることに十分ではないことがわかった。これらの課題を改善し、今後も見通しをもって理科の学習活動に取り組む生徒を育成していきたい。